

私たちが 地域おこし協力隊です

ただいま留萌市で奮闘中！
地域おこし協力隊の各隊員は、活気ある地域づくりや定住に向け、さまざまな活動に取り組んでいます。



地域の活性化に向け 隊員3人が活動中

市では、平成22年度から地域おこし協力隊を募集し、これまでに隊員11人を委嘱しました。

隊員は、おおむね1年から最長3年の委嘱期間中に市からの支援を受けながら、さまざまな活動に取り組んでいます。これまでに3人の隊員が定住し、現在も地域の一員として活躍しています。

現在、26年度と28年度にそれぞれ委嘱した3人の隊員が活動しています。各隊員は、それぞれの目標や夢を抱き、自身の才能や能力、特技などを生かして新規就農や6次産業化に向けた商品開発、農業技術の習得などに取り組む、定住・定着の道を模索しながら、活気ある地域づくりの一助として努力しています。

留萌市では近年、少子高齢化に伴う人口減少や市外への若い世代の流出などが続いています。市外から移住してきた隊員たちの活動や熱意などが、地域にとって良い刺激となり、これまで以上に地域の活性化が促進されることが期待されています。

■現在活動中の隊員3人を紹介します

あいかわ はるき
今年8月から活動中の 相川 春生 です。

留萌の農作物の良さを情報発信

相川さんは、市が所管する「幌糠農業・農村支援センター」で、水耕栽培などの技術を学んでいます。

志望動機について「長崎の実家が農家を営んでいたこともあり、農業に関心を持っていました。映像関係の仕事をしてきたので、その経験を生かしながら、広く留萌の農作物の良さを情報発信して

いきたいと考えています」と語ります。

留萌の印象について「温かい方がたくさんいて、良い地域だと感じます。ウェルカムな感じで、うれしいですね」と笑顔を見せます。

「地域に良い刺激を与えられるような新しい取り組みをしたいと考えています。皆さんよろしくお願ひします」と話しています。



きくち やすゆき
平成27年1月から活動中の 菊地 泰之 です。

新規就農に向けて着々と準備

菊地さんは、潮静の花き農家で、トルコギキョウの栽培や農業技術などを学んでいます。

「今年からは、ハウスを2棟借り、育苗から出荷までの工程を学んでいます。花の成長を感じながら、作業に携わることができ、毎日楽しいですね」と笑顔を見せます。

来年春に就農することを

目指し、現在着々と準備を進めています。「まだまだ学ばないといけないことはたくさんありますが、留萌で頑張っていきたいと考えています」と語ります。

「今後、留萌の農業が活性化し、どんどん発展していったらいいと望んでいます。少しでも貢献できるように頑張ります」と話しています。



さとう たけし
平成26年8月から活動中の 佐藤 武志 です。

農業をサポートする活動をしたい

佐藤さんは、市が所管する「幌糠農業・農村支援センター」で、水耕栽培やバイオマスボイラーの燃焼実験などを行っています。

「地域おこし協力隊に参加して今年で3年目となりました。地域の皆さんと良い関係を築けたことが最大の成果だと感じています」と振り返ります。

「栽培した野菜が、販売

先で良い評価をいただくとうれしいですね」と笑顔を見せます。

現在、農業支援を目的としたNPO法人の立ち上げに関わっています。「留萌で農業をサポートする活動を続けていきたいと考えています。農家の皆さんと一緒に、留萌の農業を活性化させていきたいですね」と話しています。



活気ある地域づくりを進めるためには、「行政」「地域」「地域おこし協力隊」がそれぞれの立場で連携していくことが大切です。また、地域おこし協力隊が活動するためには、皆さんの理解と協力が不可欠です。みんなで協力し合いながら、活気ある地域にしていきたいと思います。